

社会資本総合整備計画 事後評価書

平成 31 年 2 月 21 日

計画の名称	32 風格と魅力ある都市を創造する彦根における子ども達の安全と安心のための通学路の点検結果に基づくみちづくり	重点計画の該当
-------	--	---------

計画の期間	平成 25 年度～平成 29 年度 (5年間)	交付対象	彦根市
-------	-------------------------	------	-----

計画の目標			
-------	--	--	--

- ・ 昨今、通学児童や生徒が巻き込まれる事故が多く発生しており、安全対策は急務である。このことから、危険箇所の改善を図り、安全で安心な通学空間を確保する。
- ・ 通学路の現状を把握するため、点検を関係機関と連携して年次的に実施し、その結果に基づき、危険箇所の改善を図り、安全で安心な通学空間を確保する。
- ・ 彦根市内の道路は、旧城下町の特性から狭隘で連続性のない道路が多く、交通の円滑化の面だけでなく、災害時の救助活動や円滑な避難行動の支障となることが予見される。このため、効果的な道路整備を行い、災害や事故に備えた安心安全のみちづくりを推進する。
- ・ 道路改築や駅周辺地区の公共空間の整備に伴う、歩道の設置やバリアフリー化の推進により、良好な歩行空間を確保する。
- ・ 日常生活や観光拠点となる鉄道駅周辺市街地の整備を推進することにより利便性を高め、市街地の活性化を図るとともに、現状の定住人口の微増を維持する。

計画の成果目標 (定量的指標)			
-----------------	--	--	--

- ・ 市内における、1年間の子ども達 (小学生、中学生) が関係する歩行者・自転車事故件数を 63件 / 年 (H23) から 44件 / 年 (H29) に 30%減少
- ・ 通学路の点検結果により抽出された危険箇所の対策を100%実施
- ・ 市内における、緊急車両 (消防車・救急車) の通報から到着までの時間を 7.4分 / 市内平均 (H23) から 7.0分 / 市内平均 (H29) に 5%短縮
- ・ 駅周辺市街地 ( J R彦根駅を中心に概ね半径500mの範囲) の定住人口を 5,651人 (H24) から 5,708人 (H29) に 1%増加

定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			備考
---------------	----------------	--	--	----

	当初現況値	中間目標値	最終目標値	
	(当初)	(H27末)	(H29末)	
・ 市内における1年間の子ども達 (小学生、中学生) が関係する歩行者・自転車事故件数 (減少数) 63件 / 年 (H23) × -30% = 44件 / 年 (H29)	(H23) 63 件	50 件	44 件	
・ 通学路の点検結果により抽出された危険箇所の対策 (達成率) 想定改善箇所数 (~H28点検、H29実施まで) 197箇所	(H24) 0 %	82 %	100 %	
・ 市内における、緊急車両 (消防車・救急車) の通報から到着までの時間 (短縮時間) 7.4分 / 市平均 (H23) × -5% = 7.0分 / 市平均 (H29)	(H23) 7.4 分	7.2 分	7.0 分	
・ 駅周辺市街地 ( J R彦根駅を中心に、概ね半径500mの範囲) の定住人口 (増加数) 5,651人 / 年 (H24) × +1% = 5,708人 / 年 (H29)	(H24) 5,651 人	5,685 人	5,708 人	

全体事業費	合計 ( A + B + C )	5,775 百万円 <b>3,751 百万円</b>	A	5,766 百万円 <b>3,741 百万円</b>	B	0 百万円 <b>0 百万円</b>	C	9 百万円 <b>9 百万円</b>	効果促進事業費の割合 C / ( A + B + C )	0.16 (%) <b>0.24 (%)</b>
-------	---------------------	-------------------------------	---	-------------------------------	---	-----------------------	---	-----------------------	---------------------------------	-----------------------------

黒字・・・計画 赤字・・・実施

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期		事後評価（中間評価）の実施時期	
事後評価（中間評価）の実施体制		平成31年 2月 19日・21日	
平成30年度 通学路合同点検に係る検証会		公表の方法	
		HP	

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業										黒字・・・計画					赤字・・・実施（未完了事業は延伸・継続します）		備考
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	道路種別	省略工種	要素となる事業名（事業箇所）	事業内容（延長・面積等）	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費（百万円）	
											H25	H26	H27	H28	H29		
A4-1	街路	一般	彦根市	直接	彦根市	S街路	改築	(都)彦根駅大敷線	バイパス 0.47km	彦根市						1,746	
A4-2	街路	一般	彦根市	直接	彦根市	S街路	改築	(都)立花船町線	現道拡幅、無電柱化 0.46km	彦根市						1,222	
A4-3	道路	一般	彦根市	直接	彦根市	市町村道	交安	(1)彦根口川瀬馬場線・竹ヶ鼻工区	交差点改良 0.12km	彦根市						30	
A4-4	道路	一般	彦根市	直接	彦根市	市町村道	交安	(1)彦根口川瀬馬場線・岡町工区	交差点改良 0.10km	彦根市						98	
A4-5	道路	一般	彦根市	直接	彦根市	市町村道	改築	(1)芹橋彦富線・彦富工区	バイパス 0.80km	彦根市						253	
A4-6	道路	一般	彦根市	直接	彦根市	市町村道	改築	(1)稲部本庄線	バイパス 0.40km	彦根市						256	
A4-7	街路	一般	彦根市	直接	彦根市	L街路	改築	(区)彦根駅東地区(古沢安清線外)	区画整理 17.70ha	彦根市						100	
A4-8	道路	一般	彦根市	直接	彦根市	市町村道	交安	(1)彦根駅平田線	歩道段差改善 0.45km	彦根市						340	
A4-9	道路	一般	彦根市	直接	彦根市	市町村道	交安	(1)錦船町線	歩道段差改善 0.85km	彦根市						162	
A4-10	道路	一般	彦根市	直接	彦根市	市町村道	交安	(2)清崎南川瀬線	交差点改良 0.15km	彦根市						25	
A4-11	道路	一般	彦根市	直接	彦根市	市町村道	交安	(1)大敷磯線	バイパス 0.58km	彦根市						390	
A4-12	道路	一般	彦根市	直接	彦根市	市町村道	交安	彦根市通学路城東小学校ほか16校区	通学路カラー舗装等	彦根市						60	
A4-13	街路	一般	彦根市	直接	彦根市	S街路	改築	(都)松原町大黒前鴨ノ巣線	現道拡幅、無電柱化、通学路 1.20km	彦根市						640	
A4-14	道路	一般	彦根市	直接	彦根市	市町村道	交安	(1)彦根駅平田線	エスカレーター設置 2.00基	彦根市						274	
A4-15	道路	一般	彦根市	直接	彦根市	市町村道	交安	(1)小泉庄堺線	歩道段差改善 0.41km	彦根市						70	
A4-16	道路	一般	彦根市	直接	彦根市	市町村道	交安	(1)石寺稲里線	ラウンドアバウト 0.60km	彦根市						100	
											小計（道路事業）					5,766	
																3,741	

C 効果促進事業										黒字・・・計画					赤字・・・実施		備考
C4 道路効果促進事業										事業実施期間（年度）					全体事業費（百万円）		
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名	H25	H26	H27	H28	H29			
C4-1	道路	一般	彦根市	直接	彦根市	設備整備	バリアフリー施設整備(彦根駅西口エスカレーター)	エスカレーター設置 2.00基	彦根市						9		
											合計					9	
番号	一体的に実施することにより期待される効果														備考		
C4-1	A4-8(1)彦根駅平田線と一体的に、駅および駅周辺の施設のバリアフリー化を推進し、利用者の安全を図る。																

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

定量的指標に関連する  
交付対象事業の効果の発現状況

- ・通学路カラー舗装等を実施した結果、事故の危険にさらされる子ども達（小学生・中学生）の割合を軽減することができた。
- ・(都)彦根駅大藪線のバイパス整備を行った結果、交通の流れもスムーズとなった。
- ・(1)彦根口川瀬馬場線・竹ヶ鼻工区の交差点改良を行った結果、交通の流れもスムーズとなり、渋滞の発生頻度が従前より低くなった。
- ・(区)彦根駅東地区(古沢安清線外)の整備を行った結果、交通の流れもスムーズとなり、渋滞の発生頻度が従前より低くなった。
- ・(2)清崎南川瀬線の交差点改良を行った結果、交通の流れもスムーズとなり、渋滞の発生頻度が従前より低くなった。
- ・(1)彦根駅平田線のエスカレーター設置を行った結果、駅および駅周辺の施設のバリアフリー化を推進でき、利用者の安全を確保できた。

定量的指標の達成状況

子ども達（小学生、中学生）が関係する歩行者・自転車事故件数を30%減少

最終目標値

44 件

目標値と実績値に差が出た要因

(当初現況値(63件/年)比 67(%)減少 目標達成)

最終実績値

21 件

通学路の点検結果により抽出された危険箇所の対策を100%実施

最終目標値

100 %

目標値と実績値に差が出た要因

(改善箇所数(～H28点検、H29実施まで 210箇所)のうち、対策実施済み 193件) 予算上の制限や、対策手法の検討、地元調整を要することから、100%実施することは出来なかった。  
未実施の箇所については、引き続き実施する次期整備計画で対応していきたい。

最終実績値

92 %

緊急車両（消防車・救急車）の通報から到着までの時間を5%短縮

最終目標値

7.0 分

目標値と実績値に差が出た要因

(当初現況値(7.4分)比 19(%)延長)  
高齢化が進んだ結果、山間部や郊外のような到着に時間を要する区域への出勤が増えたこと等が要因と考えられる。  
次期整備計画で引き続き幹線道路の改良を進めることで、効果発現をはかっていきたい。

最終実績値

8.8 分

駅周辺市街地（JR彦根駅を中心に概ね半径500mの範囲）の定住人口を1%増

最終目標値

5,708 人

目標値と実績値に差が出た要因

(当初現況値(5,651人)比 2(%)増加 目標達成)

最終実績値

5,762 人

定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況  
(必要に応じて記述)

3. 特記事項（今後の方針等）

未完了の事業については、次期計画もしくは別計画にて継続し、早期完了に向けて改善に取り組む。